

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画(原案)」について、
関係する住民からいただいたご意見

本資料は、関係する住民からいただいたご意見です。
ただし、個人に関する情報であって特定の個人を識別
できるものについては、黒塗りしています。

国土交通省関東地方整備局

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

① 名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>整備計画全体に疑問を呈します。</p> <p>これまでの霞ヶ浦水系に対する施策は効果よりも弊害を呼び起こすものだった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、霞ヶ浦の汚染は霞ヶ浦開発による水氾化によるものであることは明らかだ。 2、その霞ヶ浦開発による農業・都市用水とも50%ほどの利用に留まっている。 3、つまり、都市用水も農業用水も大変な水余りを証明している。 4、利根川連絡水路は利根川の漁業被害のため閉鎖されたままだ。 5、しかし、東京都、千葉県などの利水者はまったく困っていない。 6、従って霞ヶ浦導水が完成しても今度は那珂川の汚染をみただけで一利もない。 7、霞ヶ浦の水質改善は原因を断つこと。つまり常陸川水門の開放、または有効な運用につきる。 <p>今後の河川整備は経済成長時代とはまったく発想を変えなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、人口の急激な減少を前提に考える。 2、力技で自然を抑え込む施策から、自然を回復し、その恩恵を受けるという人間本来の在り方に向かうべきだ。 3、自然現象(災害ではない)の影響を甚だしく受けるところは、人間が接近し過ぎたとみるべきだ。人口の減少に合わせ徐々に撤退し、自然現象を災害にしないよう自然と人間の距離を計画すべきだ。 4、霞ヶ浦は首都圏に接する最大の湖だ。美しい自然を回復し、漁業など生業を復活させれば巨大な観光産業が生まれる。 5、流水の正常維持という傲慢な思考は反省すべきだ。自然に帰ればそれが正常というものだ。 <p>既に人工的な恵み=利水は子孫に負荷をかけるほどに余っている。計画ではごく一部に位置されているが、霞ヶ浦導水は即刻中止すべきだ。霞ヶ浦の水質浄化は常陸川水門の開放・運用以外は意味がない。</p> <p>霞ヶ浦水系河川整備計画は、本来利根川水系河川整備計画の一環として行われるべきものだった筈だ。それが八ッ場ダムを急ぐことで利根川江戸川を先行させてしまった。利根川水系は相互に流入・流出をするものであり一体として考え計画してき</p>	

[/]

		<p>たものではなかったのか。この度の鬼怒川の水害はそれを外しては考えられない。いま行くべきは、霞ヶ浦水系だけでなく、先に決まった利根川江戸川河川整備計画も白紙に戻し、改めて利根川水系河川整備計画を立てるべきではないか。多くの国民はこのようご都合主義を知ることは不可能に近い。いまこそ国民のための河川政策に帰るべきだ。</p>
--	--	---

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 三郷市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 <input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
5章	24頁	<p>計画（原案）の記述</p> <p>5.1.3 河川環境の整備と保全に関する事項</p> <p>(1) 水質改善対策</p> <p>1) 霞ヶ浦導水</p> <p>那珂川の茨城県水戸市渡里町地先と霞ヶ浦高浜沖の同県石岡市三村干拓地先と霞ヶ浦土浦沖の同県土浦市湖北地先及び利根川の茨城県稲敷市結佐地先と霞ヶ浦麻生沖の同市上須田地先を連絡し、河川湖沼の水質浄化、既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進及び特別水利使用者に対する都市用水の供給の確保を図り河川の流水の状況を改善することを目的とする霞ヶ浦導水を整備する。</p> <p>計画（原案）に対する意見</p> <p>「霞ヶ浦導水事業を利根川水系霞ヶ浦河川整備計画に位置付けてはならない。」</p> <p>霞ヶ浦導水事業は那珂川の漁業に致命的な影響をもたらし、且つ、水質を大きく悪化させる事業であり、更に、事業そのものに必要性がなく、虚構で成り立っている事業であるので、霞ヶ浦導水事業を利根川水系霞ヶ浦河川整備計画に位置付けてはならない。</p> <p>那珂川、利根川の自然と漁業に大きなダメージを与え、目的が失われた霞ヶ浦導水事業は直ちに中止されなければならない。</p> <p>以下、その理由を述べる。</p> <p>1 那珂川の漁業への影響</p> <p>1-1 漁獲高日本一を誇るアユへの影響</p> <p>那珂川はアユの漁獲高で日本一を争う河川である。霞ヶ浦導水により、那珂川から大量取水をすることによる最大の懸念は、アユの仔魚（卵から孵化したばかりの稚魚の前段階の幼生）の吸い込み問題である。仔魚は自力では遊泳することができない。孵化した後は、流れに乗って、餌の豊富な河口域に到達し、そこでようやく餌を食べる。仔魚が河口域に到達するまでの間は、腹部に蓄えている卵黄を消費しながら生存するが、卵黄は4日分しかない。その期間内に河口域に到達しないと、</p>	

5章	24頁	<p>仔魚は餓死することになる。</p> <p>導水事業は、最大で毎秒15m³という大量の水を那珂川の取水口から取水する計画であるから、自力では遊泳できない仔魚が取水口から吸い込まれたり、取水口付近で滞留して餓死する可能性が十分にある。</p> <p>1-2 三大産地の一つである涸沼シジミへの影響</p> <p>最下流で合流する涸沼川および涸沼は宍道湖（島根）、十三湖（青森）とともに日本のシジミの三大産地の一つである。那珂川の最下流で涸沼川が流入し、涸沼につながっている。涸沼川でヤマトシジミの生産が卓越するのは潮汐によって那珂川の河川水が逆流して適度な塩分が保たれるとともに、涸沼内で生産された有機物が下流のヤマトシジミの漁場に運ばれていることにある。導水事業による那珂川からの大量取水はこのバランスを崩し、ヤマトシジミの生産に大きな影響を与えると予想される。</p> <p>2 外来生物が侵入する危険性</p> <p>那珂川は、利根川水系の霞ヶ浦とは水系が異なる。導水事業によって異なる水系間を生物が移動することによって起きる生態汚染が強く危惧される。とりわけ心配されるのは、特定外来生物カワヒバリガイなどの外来生物の分布拡大である。外来生物が漁業や農業、生態系に大きな被害を及ぼすことは周知のとおりであり、外来生物の侵入で、那珂川固有の生物の生息が困難になり、取り返しがつかない事態になることが予想される。</p> <p>国交省は 霞ヶ浦から那珂川への導水にあたり、砂ろ過施設を通水させることにより、ブラックバス等の魚卵を捕捉できるとしているが、それは実験レベルで、目詰まりを起こさずにろ過が継続できた場合であり、実際はそうにはいかない。何しろ、毎秒11m³、1日95万m³という大量の水を浄化しなければならない。よほど大きな浄化施設を造らなければ、浄化し続けることは困難である。</p> <p>また、生態汚染は外来魚の魚卵の問題だけではない。那珂川には生息していない様々な生物が霞ヶ浦から持ち込まれることになり、深刻な生態汚染問題を引き起こすことは必至である。</p>
----	-----	---

5章	24頁	<p>3 霞ヶ浦の水を那珂川の清流に導水することによる水質の悪化。</p> <p>霞ヶ浦は有機物質の汚濁度を示すCODが那珂川のCODの4～5倍もある。このように汚濁度の高い霞ヶ浦の水を清流の那珂川に濁水時に導水すれば、那珂川の魚介類に多大な影響を与えることは確実である。</p> <p>霞ヶ浦から那珂川への最大導水量は毎秒11m³もある。濁水時の那珂川の流量は毎秒20m³またはそれ以下であるから、導水量はかなりの割合を占め、那珂川の水質環境が大きく変わることになる。</p> <p>そして、霞ヶ浦からの導水が那珂川の水とすぐに混ざるとは限らない。水温が相対的に高い霞ヶ浦からの導水は密度差で表層部を流れるから、那珂川の魚介類は有機物質の汚濁度が4～5倍もある水に遭遇することになり、確実に大きなダメージを受ける。</p> <p>霞ヶ浦導水事業のうち、霞ヶ浦と利根川を結ぶ利根導水路が1994年3月に完成して20年経つにもかかわらず、ほとんど使われずに開かずの水路になっているのは、霞ヶ浦の水を利根川に導水すれば、1995年9月の試験通水で起きたシジミの大量死が再び起きることが懸念されているからである。利根川のCODに対して霞ヶ浦のCODは2～3倍である。利根川よりずっときれいな那珂川に霞ヶ浦の水を導水すれば、もっと深刻な事態になることが予想される。</p> <p>4 導水による霞ヶ浦の水質浄化は虚構</p> <p>霞ヶ浦の汚濁の機構を踏まえれば、利根川と那珂川から霞ヶ浦に導水しても、霞ヶ浦の水質は改善されない。霞ヶ浦は有機汚濁物質による汚濁がひどく進行しているが、その主因は外からの有機汚濁物質の流入による一次汚濁ではなく、富栄養化で植物性プランクトン（浮遊性藻類）が異常増殖することによる二次汚濁である。</p> <p>富栄養化の栄養塩類である窒素とリンの濃度は環境基準の3～4倍もあるから、その濃度を大幅に下げない限り、霞ヶ浦の汚濁状況は改善されない。</p> <p>利根川と那珂川から導水しても、窒素とリンの濃度の低下にほとんど寄与しないので、霞ヶ浦の水質が改善されるはずがなく、導水による霞ヶ浦の水質浄化は虚構である。</p> <p>国交省の計算でも、霞ヶ浦導水による霞ヶ浦のCODの低下はわずか平均で0.8mg/Lに過ぎない。霞ヶ浦のCODは6～10mg/Lの間を変動しており、国交省の計算による改善効果は水質変動の範囲内にとどまっているから、霞ヶ浦の水質が改善されることはない。</p> <p>5 時代錯誤の水源開発</p> <p>霞ヶ浦導水事業は毎秒9.026m³の水源を開発して、茨城県、千葉県、東京都、埼玉県の水道、工業用水道に供給することになっている。しかし、いずれの利水予定者も水需要は増加傾向がなくなり、多くは減少傾向が続いており、新規の水源開発は今や無用のものになっている。</p>
----	-----	---

5 章	24 頁	<p>5-1 利根川流域</p> <p>利根川流域6都県の水道の一日最大給水量の動向を見ると、1992年度以降、ほぼ減少の一途を辿り、2012年度までの20年間に約200万m^3/日も減少した。一日最大給水量の減少傾向は一人当たりの水量が減ってきたことによるものである。</p> <p>利根川流域6都県は節水型機器の普及などによって今後も一人あたりの給水量が減っていき、一方で人口も近い将来は減少傾向になるので、過去20年間続いてきた一日最大給水量の減少傾向は今後も続き、人口の減少によってその傾向に拍車がかかることは確実である。</p> <p>利根川流域では水道用水だけではなく、工業用水も減り続けている。1991年以降の減少量を見ると、約80万m^3/日も減っている。水道用水の減少量も合わせた減少量は約280万m^3/日にもなる。</p> <p>このように利根川流域では、水道用水も工業用水も減り続けてきており、水需要が増えるから、水源開発が必要だという話は遠い昔のことになっており、霞ヶ浦導水事業による新規水源の開発は今や無用のものになっている。</p> <p>5-2 那珂川流域</p> <p>那珂川から取水している茨城県の県中央広域水道と那珂川系・県営工業用水道も水需要の増加がストップしている。ただし、既得水源がもともと少ないので、合わせて約0.4m^3/秒の水源が不足し、それを霞ヶ浦導水事業の暫定水利権に依存している。しかし、この不足水量是那珂川の流況からすれば、微々たるものである。その取水を認めても何の問題もない。</p> <p>那珂川の濁水は2001年まで数年に一度の頻度で起きることがあったが、いずれも5月連休の短い期間に限られており、田植え時の一斉取水で引き起こされたものである。最近の減反で起きにくくなっている。さらに、県営の水道・工業用水道の取水地点の上流では使用後の農業用水の還流によって流量が十分に回復しており、那珂川は水利用の面で余裕のある河川である。</p> <p>したがって、那珂川において県中央広域水道と県中央広域工業用水道が必要としているわずかな不足水源の取水を認めることに何の支障もなく、那珂川においても霞ヶ浦導水事業による新規水源開発は不要である。</p> <p>6 まとめ</p> <p>以上のとおり、霞ヶ浦導水による霞ヶ浦の浄化は虚構であり、また、新規の水源開発は水需要が縮小していく時代において必要性を喪失している。</p> <p>そして、霞ヶ浦導水是那珂川、利根川の水質を悪化させ、生態系にも多大な影響を及ぼし、漁業に対して大きなダメージを与えるものになる。</p> <p>百害あって一利なしの霞ヶ浦導水事業は直ちに中止されるべきであり、利根川水系霞ヶ浦河川整備計画に霞ヶ浦導水事業を位置づけてはならない。</p>
-----	------	--

□氏名		[REDACTED]	
□住所		(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 文京区
□電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
□年代		30代	□性別 男性
意見該当箇所		□ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
1章	9頁	<p>1章で霞ヶ浦導水事業を「事業中」に位置づけているが、同計画は中止すべきである。この20年、各地で水需要の減少傾向は明らかであって、高度成長期のように、新規水源開発が重要な時代ではない。節水危機の普及などによって、水需要の低減は時代の趨勢ともいえる、構造的なものである。これに今度の人口減少、高度成長期に建設したインフラの更新などに踏まえれば、不要不急の事業に多大な投資をしている場合ではない。</p> <p>同事業は、H24年に会計検査院にも「無駄な事業」として指摘された事業であって、中止が望ましい。</p>	
5章	24頁	<p>計画では、水質改善対策として霞ヶ浦導水を位置づけている。しかし、現地の状況をよく知る漁民が導水事業の差し止め訴訟を提起したように、実際には、同事業は水質改善に資するどころか、かえって悪化させることが懸念される。というのは、霞ヶ浦のCODは、那珂川のCODの4～5倍もあるのであって、こうした汚濁度の高い霞ヶ浦の水を那珂川に導水すれば、那珂川の魚介類に多大な影響を与えることは、ほぼ自明の理である。</p>	
5章	37頁	<p>本計画案は、常総水害後、最初の整備計画案である。しかし、計画案には、同水害を踏まえた記述が全く見られない。従前のものと全く同じトーンであって、水害など関係なく、ルーティーンとして計画整備作業を淡々と行っているだけという印象が強い。</p> <p>例えば、ハザードマップの記述である。常総市のハザードマップは、なぜか、右岸側でより深く浸水するというもので、どこが大きな浸水被害に見舞われるかという点で、定性的な誤りをおかしていた。それは何故なのか、どうしたら改善され、詳細な予測ができるのか。そうした点は、霞ヶ浦地域の河川整備計画の策定に於いても、同様に検討課題とされていいはずである。その教訓は、全国的に共有されていいはずである。この時期に策定作業をしようとしていることにも象徴されるが、常総水害を踏まえて、新しく課題として浮かび上がったことなどを検討する姿勢の見られない河川整備計画では、住民は納得いかないはずである。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 茨城県稲敷郡	(市区町村名) 阿見町 [Redacted]
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]	
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
原	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
5	40	<p>21年間霞ヶ浦の清掃活動をしています。流域の市町村との連携体制を構築してほしい。現在、霞ヶ浦河川事務所は土浦市と連携されていますが、この連携を流域市町村全体ととって、霞ヶ浦の清掃活動がよりスムーズに行えるようにしていただきたい。また、既存の施設を活用した水質浄化を積極的に行ってほしい。例えば、常陸川水門の魚道の操作や霞ヶ浦導水事業の早期完成、さらに、美浦村の植生浄化施設などである。</p>	

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

005

① 氏名		[REDACTED]	
② 住所		(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 土浦市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		30代・	⑤性別 男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
5	9	霞ヶ浦の水質改善対策について、出来るだけ早期に「霞ヶ浦導水」を整備していただきまして、湖内の水質改善を進めていただきたいと思います。霞ヶ浦周辺に住まう地域住民が誇りをもてるようなきれいな湖へと変貌し、風光明媚な霞ヶ浦、景観豊かな景色として、地域住民の憩いの場として生まれ変わることをご期待致します。	

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

006

① 氏名		[REDACTED]	
② 住所		(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 杉並区
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
③ 年代	④ 30代	⑤性別	男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
5	9 13	水質の改善にあたり、導水事業の推進は是非ともスピードアップしていただきたい。一方で、近隣住民や業者によるゴミの不法投棄が後を絶たない現状につき、水質悪化の一因を担っているのは事実だと考える。モラルの問題にもなるが、不法投棄を防止するためのパトロール、近隣自治体との連携を、是非とも先頭切って進めていただきたい。	
5	10	人と河川の豊かなふれあいに際し、せつかくの湖岸道路が舗装されてない状況がまだまだにある。自転車人口が増えていることから、霞ヶ浦周りを近隣だけでなく、遠方からも自転車に乗るために霞ヶ浦を訪れる人もいるので、湖岸道路の舗装を確実に実施いただきたい。また、観光に来やすくするためにも、霞ヶ浦西岸側にも道の駅のような公衆的な施設の設置を望む。 その他 霞ヶ浦という資源を有効活用できていない。少なくとも、観光誘致できる実に豊かな水産資源、観光資源、農産物、自然、いろいろある中で、国や地方公共団体からの発信が実に弱い。このような整備の目的は当然災害対策であることは承知しているものの、教育や景観保全といった目的も一端を担うのであれば、観光誘致に向けた連携を行うのも重要であり、ただ整備を進めるだけでなく、そこから生み出す経済効果を大きく主張いただきたい。	

①	氏名	[REDACTED]	
②	住所	(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 小美玉市
③	電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]	
④	年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
5章	24頁	<p>計画（原案）の記述</p> <p>5.1.3 河川環境の整備と保全に関する事項</p> <p>(1) 水質改善対策</p> <p>1) 霞ヶ浦導水</p> <p>計画（原案）に対する意見</p> <p>「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画から霞ヶ浦導水事業を削除せよ。」</p> <p>那珂川水系および利根川の漁業、生態系、生物多様性、産業、文化、生活を破壊する効果ゼロの霞ヶ浦導水事業は直ちに中止されなければならない。</p> <p>以下、その理由を述べる。</p> <p>1 那珂川水系の漁業への影響</p> <p>1-1 シジミへの影響</p> <p>那珂川水系のシジミの生産を支配する二大要因は、流量と河床高である。この2要因を組み込んだモデルで毎秒15t取水の影響を試算すると被害率は50%と予測される。この予測は2011.3.11 東北地方太平洋沖地震による当河川下流域の0.2mの地盤沈下で検証できた。当該地震前にやく約2000tあった生産力は、地震後1000t以下に低下した。この状態での15tの取水は生産力を500t以下に低下させ、かつ5年1回程度の大不漁をもたらし、シジミ漁業の存続を不可能に、当該漁業の廃業をもたらす。</p> <p>1-2 漁獲高日本一を誇るアユ、その他の魚類への影響</p> <p>アユも、1995年以降、河口域の河床高変動の影響を受け資源が激減し、すでに全国第一位の座を開けわついている。毎秒15tの取水は下流域の汽水環境を変え、仔魚の餌であるワムシ等初期餌料の発生を劣化させ生残率を低下させ生産量を一気に30%低下させる。</p> <p>この下流域の当該事業による環境変化は、アユ以外の種にも大きな影響をもたらす。シジミで検討した手法を用いて影響を検討した結果、現在残存する湖沼ニシン、マハゼ、ウグイ（マルタを含む）への被害率は、略100%、ウナギ86%、フナ類60%、サケ20%と予測された。</p> <p>以上のように那珂川水系の主要魚種への影響は甚大であり、当該事業が実施され</p>	

5章	24頁	<p>れば漁業は崩壊、地域の文化・産業が消失する。</p> <p>2 外来生物が侵入する危険性</p> <p>霞ヶ浦湖水を濾過で魚卵・プランクトン状の生き物（仔魚、ゾエア、浮遊幼生）を除去することは毎秒11m³、1日95万m³規模では不可能である。さらにウィルス、化学物質（マイクロキスチン、アナトキシン等の毒性物質、ジオスミン、ジメチルイソボルネオール等の異臭物質が、かならず移送され上水に問題を引き起こす。</p> <p>これらの物質は、さらにサケ、アユ、ウナギ、ボラ等の通し回遊魚の遡上に影響を与え生態系攪乱を引き起こし、那珂川水系の固有の生態系を破壊することは必至だ。生態系破壊は、継承されてきた生活・生産・文化を破壊し、地域のアイデンティティを壊滅させる。このことは生物多様性条約や生物基本法に抵触する犯罪行為で先進国では見られない行為だ。この一事だけでも事業中止の十分な理由だ。</p> <p>利根川については、すでに利根河口堰、霞ヶ浦開発の影響で生物多様性損傷は誠に激しいものがあるが、なお、シラスウナギの遡上があり、このシラスウナギが産卵親魚となることでニホンウナギの資源が維持されている。毎秒25tの利根川からの取水は、利根川へのシラスウナギの遡上数を低下させニホンウナギの絶滅をもたらし。</p> <p>3 霞ヶ浦の水質浄化</p> <p>(1) 二つのシミュレーション</p> <p>モデルの構造</p> <p>水質浄化効果COD0.8mg/L低減は、国によるシミュレーションの結果だ。一方、市民側にもう一つのシミュレーション予測があり、これは「効果なし」とのセカンド・オピニオンを出している（中曽根英雄 2008）。本来、セカンド・オピニオンを重視すべきだが、国はこれを無視した。国の単層ボックスモデルに対し、中曽根モデルは、多層メッシュ・モデルである。多層モデルとしたことによって沈降速度に差が生じたことが効果の判定に影響を与えた。那珂川から霞ヶ浦に注入される河川水と湖水の水温差を考慮すれば、密度流、鉛直流の項が、また5月～8月の湖水の成層を考慮すれば、多層モデルの結果を重視すべきだ。</p> <p>結果の検証</p> <p>上記シミュレーション結果の検証は、両者で行われている。国は過去10年間の実測値と予測結果を比較検討しているが、再現性は極めて低く、事業効果を担保するものではない、中曽根モデルについては、2007年霞ヶ浦4地点の観測地点で検証を行い相対誤差を求めCODで-26.5～-18.9%となっており国の誤差に比較して小さい。両者の予測のどちらを採用すべきかといわれれば、中曽根モデルの結果を取らざるを得ないが、それとても事業効果を担保するものではない。結論を得るためには、実証実験が必要だ。利根川機場を使った水質浄化実験を3年間実施し。その結果をみて再検討すべきだ。</p> <p>(2) 浄化対策代替案</p> <p>仮に当該事業の効果が認められたとしても、費用対効果という観点からより有効な対策があれば、当該事業を棄却すべきである。</p> <p>2009年に9.5mg/lあったCODは2013年には6.8mg/lに低下し、この間、2.7mg/lの削減に成功した。実に当該事業の3.4倍の効果をわずか5年間で達成している。</p>
5章		

	<p>この原因を検討し代替案とすべきだ。</p> <p>4 新規都市用水の開発</p> <p>これについては議論の余地はない。茨城県新水のマスタープランでは、水余りを「危機管理用水」、「環境用水」、「自流等の削減」に割りふり、水余り隠ぺいを試みている。今後の人口減を勘案すれば都市用水開発が不要なことは、誰の目にも明らかだ。</p> <p>5 まとめ</p> <p>以上のとおり当該事業が不要であることは明らかだ。加えて漁業、生態系、生物多様性、地域の生活・文化・産業を破壊する。百害あって一利なしの霞ヶ浦導水事業を実施する理由はどこにもない。</p>
--	--

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(府県名) 茨城県	(市区町村名) 潮来市 [REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性 <input checked="" type="radio"/> 女性 <input checked="" type="radio"/>
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見毎にできるだけ200字以内で記載してください)	
2	15	自治体等が管理している樋門や船溜まり等について、将来的に維持管理ができなくなるのではないかと危惧がある。引き渡し時に増加管理費を含めて引き渡されているが、時代の変革もあり、維持管理の方策について前向きに検討願いたい。	
2	15	霞ヶ浦は、東京都をはじめとした利水者の重要な水がめであり、治水上においても重要な役割を有している。この霞ヶ浦の水質をはじめとした環境を改善するために「霞ヶ浦開発二期事業」の立ち上げを要望する。	
4	20	霞ヶ浦の水質環境を改善させるために、工業用水の取水位置を上流側に移設することを前提に、常陸川水門を改修し、利根川河口堰のようにきめ細やかな操作が出来るよう要望する。	
5	23	地球温暖化やゲリラ豪雨の頻発等、環境の変化に対応した霞ヶ浦の内水排除能力の向上のため、利水の補給に影響のない範囲内で霞ヶ浦の水位を下げ管理するよう要望する。	
5	23	治水機能の向上のため、無堤区間の早急な対策をお願いしたい。	

(意見提出様式)

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(府県名) 茨城県	(市区町村名) 潮来市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 <input type="radio"/> 女性 <input checked="" type="radio"/>
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見毎にできるだけ200字以内で記載してください)	
5	24	霞ヶ浦の水質改善のため、一刻も早く霞ヶ浦導水事業を完成させてほしい。	
5	25	福島原発事故に伴い、霞ヶ浦の底泥に高い数値の放射能が存在している。ウナギ等の出荷もできず漁業にも大きな打撃となっている。早急に底泥の放射能除去対策を講じてもらいたい。	
5	38	霞ヶ浦の環境改善、水質改善への意識高揚、景観の創造を目的として、霞ヶ浦流域の住民の憩いの場となるような親水公園及び噴水施設等の設置を要望する。	

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

009

① 名		[REDACTED]	
② 所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 所沢市 [REDACTED]
③ 電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
③ 代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
主として第5章		<p>この事業は社会的にも（利権）環境面でも（水質汚濁）経済面でも（漁業影響）無益・有害。限られた財源はかかる事業に浪費せず、有効に使って欲しい。</p> <p>1. 私の本件に関する知識は限られていますが、複数専門家の意見を聞き論文を読み、貴省の「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画」原案にも目を通しました。その上で上記判断に到達するにはそれほど詳細な専門知識を必要とせず、一般市民の良識の範囲で判断可能です。</p> <p>「私益」に毒されない専門家の主張は圧倒的な説得力をもっています。もし反論できるなら公平な方法で（公開・双方の専門家同数で・メディアには取材に条件を付けず・資料は双方に平等に）実行して下さい。</p> <p>2. もう1点補足します。本事業にかかわっている国交省の諸兄姉も日本国民であり、真面目な納税者だと思います。</p> <p>皆さまの方が良くご存知の通り、戦後70年経って全国に建設された膨大な基礎インフラ類の老朽化が現実に顕在化し始めています。その一方で国の財政状況は危機的な現状です。現政権の「バラマキ体質」で一向に改善の兆しが見えません。貴重な財源を不要不急の公共事業に回すことは極力止めて、待ったなしの「基礎インフラ老朽化対策」に優先充当すべきです。</p> <p>以上</p>	

[/]

①氏名		[Redacted]			
②住所		(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 土浦市		
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]			
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代		60歳以上	⑤性別
					男性 女性
意見該当箇所		⑥ご意見			
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)			
		<p>全体的な印象として、この整備計画なので、ハード面が多くなるのは仕方ないとしても、ソフト面：特に住民教育、技術、産業、研究者等との連携（パートナーシップ）に関する表現が少ないうちと思われる。</p> <p>特に、近年の国交省は、啓蒙活動に対する支援が後退している。（予算の削減上でシラガ...）</p>			
1	1 下から 4行目	<p>高速道路の収容の順は、県民にとって、霞ヶ浦周辺では常磐自動車道、首都圏中央連絡自動車道、東南自動車道の順かな？</p>			
1	10 13行目	<p>世界湖沼会議 → 本回世界湖沼会議と特定した方がよいと思う。</p>			

「利根川水系霞ヶ浦河川整備計画（原案）」に対する意見

011

① 名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 土浦市 [REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		60歳以上	⑤性別 男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
1	5	<p>“少子・高齢化は急速に進み、社会・経済構造に大きく影響を与えることが予測される。”と記されている。その観点からすれば、1985年に策定された「霞ヶ浦導水事業」は、30年前の遺物に過ぎないので見直しすべきである。</p> <p>すなわち、那珂川・霞ヶ浦の導水事業の現代的意義は破綻している。今後30年を対象期間とする本霞ヶ浦河川整備計画に霞ヶ浦導水事業（那珂川導水事業）を取り入れることに反対する。</p>	
5-1-3	24	<p>表中・機能の概要に記されている“水質浄化・流水の正常な機能の維持と増進・水道用水の新たな確保・工業用水の新たな確保”については、自然科学的にも社会科学にも成立しない。1989年に完成した利根導水路は「開かずの門」となっている。この間、関係市町村自治体および住民にとって、なんら生活的にも経済的にも支障はない。導水事業は、高度経済成長期の遺物であり、その目的は現在の社会的ニーズに合致していない。このような公益性・公共性のない事業を霞ヶ浦河川整備計画に取り入れることに反対する。</p> <p>本事業は、生物多様性基本法、湖沼特別措置法に反し、涸沼のラムサール条約登録の要件を損なうものである。霞ヶ浦湖水の導水により、関東一の清流・那珂川の水質環境が著しく劣化する。涸沼への影響も考えられる。</p> <p>那珂川導水路工事に着工すべきではない。本整備計画で重要なことは、1989年に完成した「開かずの門」となっている利根導水路を（那珂導水路の1.67倍大きい）試行して、当初の目的にかなうか、更に霞ヶ浦生態系に及ぼす影響評価を科学的かつ丁寧に行うことこそ、本整備計画案に盛り込むことである。</p>	

[/]

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 栃木県	(市区町村名) 鹿沼市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
5章	24	<p>計画（原案）の記述</p> <p>5.1.3 河川環境の整備と保全に関する事項</p> <p>(1) 水質改善対策</p> <p>1) 霞ヶ浦導水</p> <p>那珂川の茨城県水戸市渡里町地先と霞ヶ浦高浜沖の同県石岡市三村干拓地先と霞ヶ浦土浦沖の同県土浦市湖北地先及び利根川の茨城県稲敷市結佐地先と霞ヶ浦麻生沖の同市上須田地先を連絡し、河川湖沼の水質浄化、既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進及び特別水利使用者に対する都市用水の供給の確保を図り河川の流水の状況を改善することを目的とする霞ヶ浦導水を整備する。</p> <p>計画（原案）に対する意見</p> <p>霞ヶ浦導水事業を利根川水系霞ヶ浦河川整備計画に位置付けてはならない。</p> <p>霞ヶ浦導水事業は、目的がすべて虚構である上に、生態系を破壊し、那珂川の漁業に致命的な影響をもたらし、かつ、水質を大きく悪化させる有害無益な事業であるので、霞ヶ浦導水事業を利根川水系霞ヶ浦河川整備計画に位置付けてはならない。</p> <p>以下にその理由を記す。</p> <p>1 霞ヶ浦の水質浄化は虚構である</p> <p>霞ヶ浦のCODは、利根川と那珂川よりも低く、CODにのみ着目すれば、両河川からの導水で霞ヶ浦の浄化が可能であるように見える。</p> <p>しかし、全窒素は両河川の方が霞ヶ浦よりも高く、全りんは利根川が霞ヶ浦よりも高い。</p> <p>また、アオコの増殖に最も適した硝酸態窒素は、那珂川が霞ヶ浦より6倍高い。</p> <p>したがって、両河川から霞ヶ浦に導水しても、霞ヶ浦の水質が浄化されることはなく、かえってアオコの増殖が増える可能性がある。</p> <p>霞ヶ浦導水事業の効果に関する国の試算でも、霞ヶ浦のCODの年間平均値を0.8mg/L低下させる程度の効果しかないことを認めており、CODが6～10mg/Lの</p>	

間を変動している霞ヶ浦では、計測誤差の範囲程度の効果しかないことになり、巨額の子算を使う意味がない。

浄化の効果が小さいことは、前田修氏（元・茨城県霞ヶ浦環境科学センター長）が「湖水回転率の改善はたかが知れている。目に見える形で水質を改善することはできない」と証言しているほか、会計検査院も効果に疑問を呈している。

1975年～2010年に霞ヶ浦浄化のために、浄化の効果が確実にあると見込まれた下水道や浄化槽の整備を中心に約1.28兆円の事業費が投じられたが、浄化の効果は上がっていない。浄化の効果に疑問のある事業を実施するべきではない。

2 新規水源の確保は虚構である

全国どこでも水余りの状態になっており、新規に水源開発を行うことは時代錯誤であり認められない。

全国の水道の1日最大給水量の推移を見ると、1994年度には5852万m³/日であったが、2013年度には4846万m³/日へと減少している。19年間で1006万m³/日の減少は、1人1日最大給水量を400L/人・日と仮定すると、2515万人分の水が余ったということである。

利根川流域6都県の水道の1日最大給水量の推移を見ても、1992年度には1418万m³/日であったが、2013年度には1186万m³/日へと減少している。21年間で232万m³/日の減少は、1人1日最大給水量を400L/人・日と仮定すると、580万人分の水が余ったということである。

利根川流域6都県の工業用水も同期間に84万m³/日も減少している。

今後も利根川流域の水需要の減少傾向が続くことが確実に見込まれるので、新規の水源開発は不要である。

渇水年に備えるとしても、余った水源で対応が可能である。

そもそも水資源開発促進法を根拠とする水資源開発基本計画に霞ヶ浦導水事業が位置付けられていることが違法である。水資源開発促進法は、その立法事実が消失しているのであり、同法を適用する余地はない。

那珂川から取水している茨城県の県中央広域水道と那珂川系・県営工業用水道も水需要の増加が止まっている。ただし、既得水源がもともと少ないので、合わせて約0.4m³/秒の水源が不足し、それを霞ヶ浦導水事業の暫定水利権に依存している。しかし、この不足水量は那珂川の流況からすれば、微々たるものであるため、その取水を認めても何の問題もない。

それにもかかわらず、国土交通省が暫定水利権しか認めないのは、国土交通省が水利権に関する権限を、水源開発事業を推進するための道具としているからとしか考えられない。国が水利権許行政が適正に執行されていると主張するならば、水源開発の所管官庁と水利権許可の所管官庁が同一であるという現状を変えるべきである。

3 流水の正常な機能の維持と増進も虚構である

霞ヶ浦導水事業における「流水の正常な機能の維持と増進」とは、霞ヶ浦を媒介して利根川と那珂川の水を移動させて、流況を調整することであるが、霞ヶ浦の水を利根川に送水することは漁業被害を考慮すれば現実的に不可能であることは、利根導水路が20年間も利用されていないことから証明されている。したがって、霞ヶ浦から那珂川への送水も現実的に不可能である。そして、両河川からの霞ヶ浦への送水もかえって水質悪化を招くおそれがあり不可能である。

したがって、両河川と霞ヶ浦の間で水を融通することが現実的に不可能である以上、流況調整による「流水の正常な機能の維持と増進」も虚構である。

水の融通が現実的に不可能である理由は、次のとおりである。

(1) アユへの影響

霞ヶ浦導水事業は、最大で毎秒15m³という大量の水を那珂川の取水口から取水する計画であるから、自力では遊泳できない仔魚が取水口から吸い込まれたり、取水口付近で滞留して餓死したりする可能性が十分にある。

(2) ヤマトシジミへの影響

那珂川の最下流で涸沼川が流入し、涸沼につながっている。涸沼川でヤマトシジミの生産が卓越するのは潮汐によって那珂川の河川水が逆流して適度な塩分が保たれるとともに、涸沼内で生産された有機物が下流のヤマトシジミの漁場に運ばれていることにある。導水事業による那珂川からの大量取水はこのバランスを崩し、ヤマトシジミの生産に大きな影響を与えると予想される。

(3) 外来生物が侵入する危険性

那珂川は、利根川水系の霞ヶ浦とは水系が異なる。導水事業によって異なる水系間を生物が移動することによって起きる生態汚染が強く危惧される。とりわけ心配されるのは、特定外来生物カワヒバリガイなどの外来生物の分布拡大である。外来生物が漁業や農業、生態系に大きな被害を及ぼすことは周知のとおりであり、外来生物の侵入で、那珂川固有の生物の生息が困難になり、取り返しがつかない事態になることが予想される。

4 まとめ

霞ヶ浦導水事業は、水質浄化、新規水源の確保及び流水の正常な機能の維持と増進という目的が全て虚構であるのみならず、利根川と那珂川の水質悪化及び霞ヶ浦の更なる水質悪化、生態系の破壊並びに漁業被害といった災厄をもたらす有害無益な事業であり、そのことの一部は利根導水路の利用不能で証明済みであり、直ちに中止されなければならない。

したがって、このような有害無益な霞ヶ浦導水事業を利根川水系霞ヶ浦河川整備計画に位置付けてはならない。